

進路だより

第3号 2016. 9. 26

6年生は自分との闘いを続けていることでしょう。4・5年生は日出祭の準備で忙しいと思いますが、進路についてもしっかり考えましょう。

センター試験まで
あと110日

◎大学入試センター試験の出願準備を！

9月7日（水）に出願書類の記入について説明会がありました。今週の「志願票」提出に向けて準備は終了していますか？

- ①「受験科目数」の決定 ＊当日変更はできません。
- ②「志願票」の記入 ＊消せるペン使用不可
- ③「受験料」の振り込み（振込用紙の違いに注意） ＊「受領書」を添付して出願
- ④「イヤホン」不適合の場合の手続きを済ませる ＊事前に「大学」に行く必要あり

9月28日（水）LHRの時間に提出

◎併願校までチェック！

第一志望校は決まっていると思いますが、併願校はまだ完全には決まっていないと思います。受験する可能性がある大学をまだ見学に行っていないという人は、日出祭の代休などを利用して、必ずキャンパスに行きましょう。

- ◆模試の際に併願校の記入をしっかりとる。
 - ・10月記述模試 10/18（火）
 - ・外部模試



模試の結果をもとに…

- 11月末に出願校を決定。
- 12月初めに調査書発行手続き

- ◆赤本で問題傾向を確認する。
出題傾向、配点比率、日程なども含め、戦略的に考えて併願校を決めよう。

- ◆大学ごとの受験料のシステムを調べる。



保護者の方に必ず相談する

- ◆延納金や入学金の手続き日まで確認する。

- ◆受験する可能性がある大学の試験会場にも事前に必ず行き、交通ルート等を確認する。

◎4年生・5年生へ 新たな形の入試がはじまっています

いま、新たな形の入試が続々と始まっており、今後ますます増えていくことが予想されます。一般入試で求められる学力とともに、今後の社会で求められる力も伸ばす取り組みを低学年のうちから始めましょう。

◆東邦大学 理学部「高大接続型入試」

正解のある問題を解く知識と技能の評価に加え、多面的に受験生の能力を評価することを目的とした入試。

- i. 事前面談
- ii. プレプログラム
3学科が提供する17プログラムのうち6コマ分を選択して受講
- iii. 出願&選抜試験
- iv. ポストプログラム
プレプログラムと併せて受講することにより、入学後に所定の単位を認定

◆東洋大学 国際学部・情報連携学部「Web 体験授業型入試」

指定された「Web 体験授業」の動画を視聴し、レポートにまとめてプレゼンテーションを試験当日に行う入試。大学で受験する方法と「Web 会議システム」を用いて自宅等で試験を受ける方法のいずれかを選ぶことができる。

- i. 指定された Web 体験授業を視聴(課題が提起される)
- ii. 課題の解決方法を調べ、考察する
- iii. 課題解決について自らの考えをプレゼンテーションする

◆立教大学 経済学部「自由選抜入試『思考力入試』」

これまでの一般入試では測りづかった、物事に対する「分析力」「解決力」を筆記試験と面接で総合的に判断する入試。経済学を武器にグローバルに活躍したい、という人材が求められている。

- i. 書類選考(志望理由書・英語資格証明書 等)
- ii. 筆記試験・面接

筆記試験は「総合科目」で、主に現代の政治や経済に関する知識や関心、基礎的な数学的分析能力などが問われる

推薦入試やAO入試を「合格のチャンスが増えるから」「一般入試より簡単だから」などと安易に考えて受験しようとする人がいます。本当に合格のチャンスは増えるのでしょうか？簡単でしょうか？

GTZの「B」ランク以上の大学の推薦入試やAO入試は、小論文やプレゼンテーションで活かせるように日頃から他方面に関心を広げて教養や経験を積むなど、相当な事前準備が求められる入試や、高い基礎学力が求められるものがほとんどです。「C」ランクの大学でも同様の準備が求められるところがあります。それらを日頃の部活動や学習と並行して進めていく力が求められます。

まずは**一般入試に対応できる「確かな学力」**をしっかり身につけることを優先させましょう。その上で推薦入試やAO入試を考えるのであれば、**4年生のうちから準備**を始めていきましょう。

◎6年生へ 受験生としての生活を再確認

徐々に不安が募る頃だと思いますが、これから半年近くを闘い抜くために、再度確認してください。

1. 目標を高く持ち続ける

目標を下げた瞬間に学力の伸びは止まってしまうもの。入試は長丁場なので、精神力や体力も必要です。それを闘い抜くための強さは第一志望校へこだわり続けられるかどうかで決まります。6年進級時の誓いを守り通しましょう。

2. 休まずに登校する

最後まで休まずに登校した生徒ほど合格率は高いもの。特にこれから実践力や応用力を養う時期での出席率と合格率との比例関係は歴然と現れます。

合格する生徒は、休まず遅刻もしない&授業を大切にする

- 勉強の機会を無題にしない
- 予習・授業・復習のサイクルを続ける自己管理能力がある
- 基礎力を疎かにしない
- 規則正しい生活習慣ができ、学習計画を乱さない

3. わからないままにしない

わからないこと、できないことを恥じることはありません。わからないことにぶつかったのは、あなたが挑戦している証拠。入試までどれだけそれを乗り越え続けるかが大切です。入試問題には、出て困ると思う苦手な所ばかりが出題されると思い、わからないものは必ずその都度質問してクリアしていきましょう。

4. 実行できる学習計画を立てる

無計画はダメですが、実行できないような膨大な量の計画もダメです。とはいえ、全てを完璧にしなければ！と思うと、負担が大きくなって計画実行が難しくなってきます。

計画の7～8割を達成できれば十分。

ただし、以下のポイントを意識して、肝心なことは先延ばしにせず、「その日にできることをできるかぎりやりきる」ということを大切にしていきましょう。

- ◇ 今日やらなければならないこと
- ◇ 今週やらなければならないこと
- ◇ 今月やらなければならないこと

5. 模試や定期テストを絶対休まず、活用する

できないこと、わからないことを発見できて初めて次に進めるのです。「できなかった所」を謙虚に反省し、答案を見直す努力をしていきましょう。

判定への一喜一憂から脱却を

- 成績は年間を通じて揺れるものと受け止める。
- 設問別に着目し、今後の方針を立てる
- 得点と自分の感触が大きく違った場合は、じっくり見直す

6. 「悩み」や「不安」はあって当たり前

「悩み」や「不安」が出てくるのは本気で頑張っている証拠。大切なのは「悩み」や「不安」に押しつぶされずに、それらとどうつきあっていくか。

しかし、ラクして結果だけを得られる道はありません。コツコツ努力を積み重ねていくしかないのです。「なんとかなる」のではなく、「なんとかする」しかないのです。

時には、誰かに「不安」をはき出すことで、エネルギーが充電されることもありますね。はき出せる先を作っておくことも大切だと思います。

7. 途中で逃げない・最後まで絶対に諦めない

ゆっくりと進むことは恐れることではありません。

しかし、立ち止まってしまったら、その先は・・・。

なんとなく授業を受けて、なんとなく予備校に行って、なんとなく帰る。

受験はそんなに甘くないですよ！

たとえ少しずつでも諦めずに戦いを続けることを、もう一度自分に言い聞かせましょう。

8. 刺激になるライバルを作る

共に刺激し合える仲間、支え合える仲間、競い合えるライバルを作りましょう。

9. 授業以外の時間で差がつく

夏休みを終えた今、次に差がつくタイミングは冬休みです。

長期休暇を征したものが合格を手にするとも言われる大事な時。冬休みをどう使うかを意識して、「今何をすべきか」を考えましょう。

10. 周囲の人への配慮も忘れずに

「勉強はかどっている？」「体調は？」など保護者の方が心配して声をかけてくださることも多いことでしょう。聞かれることが嫌なら、自分からこまめに近況を報告するのも一つの方法かもしれませんね。

周りに応援してくれる人（家族、友達、先生）がいることを忘れずに。

入試という壁を乗り越える過程で、人として、大人になる土台もしっかり身につけてほしいと思います。

○書類の書き方や期日について

○集団生活の場である学校での過ごし方

○感情のコントロール